

教育と大学の明日を考えよう

どうする？主権者教育・学問の自由・大学の自治

基調講演 13:40～15:00

前川 喜平

(元文部科学省事務次官、現代教育行政研究会代表)



パネル討論 15:15～16:45

パネリスト: 与良正雄 (『毎日新聞』専門編集委員、「熱血!与良政談」など連載)

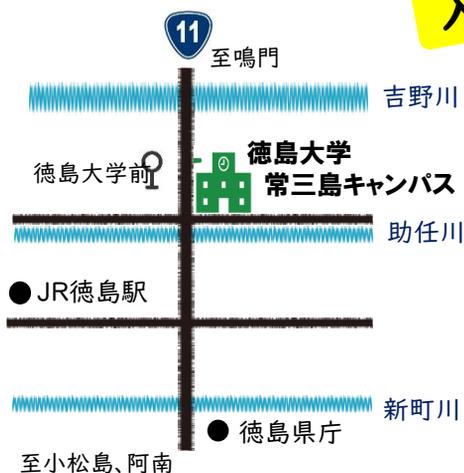
山口裕之 (徳島大学教授、徳島大学教職員労働組合書記長)

司会: 饗場和彦 (徳島大学教授)

2021年 **3月13日** (土)
徳島大学 常三島キャンパス
けやきホール (総合科学部2号館)

13:00開場 13:30開演

*公共交通機関でのご来場にご協力を。



主催: 徳島大学総合科学部・国際政治学研究室

☎088-656-7186 ✉ aiba.kazuhiko@tokushima-u.ac.jp

【ご注意】対面式・参集式の通常の開催方式を予定していますが、コロナ禍の状況によっては遠隔式(オンライン式)に変更する場合があります。その際は徳島大学総合科学部のホームページに告知しますのでご確認ください。

前川喜平氏プロフィール

1955年生まれ、元文部科学省事務次官。加計学園の問題で真相を語り大きな注目を集めた。現在は夜間中学などでのボランティアや講演、執筆活動に従事。『面従腹背』(毎日新聞出版)、『これからの日本、これからの教育』(共著、筑摩書房)、『同調圧力』(共著、KADOKAWA)、『前川喜平「官」を語る』(共著、宝島社)など著書多数。

入場無料

申し込み不要

■民主主義社会の一員を育てるのが主権者教育。だが若者は3人に1人しか選挙に行かない。

「そうさ、加計問題は…」

- 日本学術会議の任命拒否ははまだ解決せず、学問の自由が危ぶまれている。
- 国立大学は毎年予算が減らされる一方で、事務作業が増えて窮乏・疲弊する中、政府による大学への管理が強まっている。
- 高等教育への予算が先進国で最低水準の日本。学生は高い授業料、返還義務のある奨学金に苦しんでいる。
- 教育基本法や教育委員会制度の改正、「道徳」の授業の導入など、戦後教育の基本がかなり変わった。
- 日本による戦争や植民地支配について、あまり知らない生徒・学生が増えている。

